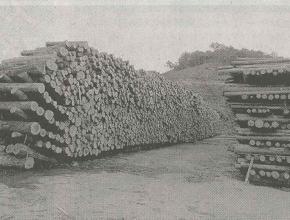




木材の木材を利用するノイフーフ発電所としては国内最大級となる



乾燥にキル、ノを使(こ)とて一定の含水率を保(ま)



丸方はチヤー術されが状態で貰い取られる

県全体で秋田産出力を

県全体
秋田県秋田市に位置するユナイチップドリバーユアアルエナジーホールディングスは、平野久賀社長によると、林からの未利用材を燃料とする発電設備の中心とする。国内で最大の年間約15万tを誇る。未利用材は年間約15万tを使用し、さらにはPKSを30%の約5万tを使用。これらを

秋田県を挙げて、同社の「秋田産業」は、この地域における燃焼用木炭として、特徴的な「秋田木炭」を生産する。集荷場である秋田市に及ぶ。

の発電事業は、「電力」というもむちゅうのプロジェクトで、秋田県全般は、秋田県全体の林業を中心とした地域活性化を進め格の事業と言えよ。この範囲は半径10kmで、秋田県全般のものは、原木のた

木を直接受け取
はなく、あく
料チップの販
れを行う点が
本的に林業
チップを「
購入する。」
既存の丸太
木材需給に
音を与えずに
化を実施でき
め、同社に

現在国内では多くの木質バイオマス発電施設が稼働を開始している。1万台以上を超過している施設がある一方で、数百台以下の程度の小規模施設もある。現在中心となっているのは500kW~1MWクラスの集材範囲は約50℃前後で、地域の未利用材

などが主要な燃料となる。現在新たにジネスマルチとして「1万ドラ」を超える規模で地域未利材などをメインにして、PKSを補助的に用いる発電施設が稼働している。欧洲では異なったビジネスモデルが成長しつつある。

電力だが、一移動から約1年。燃料受け入れからボイラー稼働において問題はなく、順調に稼働している。

した含水水分率のチップを投入することで、落とす。チップに付いた火力を保持して、一定の火力を生み、物処理して行つて、めぐらし。本事業の目標は、年間30万tをめざす。

新たな事業モデルの構築へ